



「よいしょ！」 ふぁーむいん富田でもちつき体験 2018.12.26

新年のご挨拶

皆様、あけましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より黒松内町観光協会に対しまして格別のご厚情を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、黒松内の観光振興につきましては、各種団体や町民の皆様と連携をとりながら、体験交流型観光の受け入れを核として広域的に取り組んでおり、近年少しずつではありますが来訪者も増えている状況にあります。

しかしながら、今後におきましても皆様方のご協力が大変重要であり、地域内外の多様な情報につきましても、皆様よりご提供頂きますようお願いいたします。本年も黒松内町及び近隣地域の観光振興がこれまで以上に発展する様に努力を続けていく所存です。今後ともさらなるご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



B2 ニュースレター

2019/1/3

～次回の協会共催イベント～
冬のフットパスイベント

じり通信 No.10 文：山本竜也

かつて壇蜜さんがナレーションを務める廃鉱山をとりあげる番組があった。そんな問い合わせから黒松内に残る大金鉱山の歴史を辿った。

ページ 3

菅野真司の図書統括 文：菅野真司

四国のお遍路さんを2回行った筆者が感じた魅力と、空海の四国各所に霊場を開いた知恵と行動力。もしも空海が現代にいたら北海道の観光はどうなっていたのだろう。

ページ 3

山に登れば気分爽快 文・写真：辻野健治

黒松内を流れる清流、朱太川の瀬や縁、川底の不思議な穴について。いつも見ている朱太川ですが知らないことがたくさんあることに気づかされます。

ページ 4

NAGI' S キッチン 文：田村渚

今回のテーマは新年らしくおもち。

お正月に余った栗の甘煮をつかった栗ぜんざいでいただいてみましょう。

ページ 4

<<協会主催・協力イベント>>

冬のフットパスイベント

3月10日(日)

観光協会が事務局を務める黒松内フットパスクラブの冬のフットパスイベント。今回もまた分水嶺をテーマに雪の中をスノーシューで歩くイベントを予定しています。イベントの詳細、お申込みに関してはもう少しお待ち下さい。

12月16日 第1回 観光交流ネットワークミーティングを終えて

観光交流促進に向け、町内で観光及び交流の受入れに携わる30名のプレイヤーが集結し、互いの連携強化を図るため、観光交流ネットワークミーティングを実施しました。第1回のミーティングは町主催による集会でしたが、当会もサポート役として、プレイヤーの皆さんに参加の呼び掛けなどをさせてもらいました。

個人事業主、公的組織、NPO法人や同好会メンバーなど、バラエティー豊かな顔ぶれとなりましたが、一度だけの集まりでは何も成果が見いだせないことは参加者の誰もが十分理解しているところ。今後は集会の回数を重ねることで、互いに理解が深まり、紡ぎ合いがなされることを期待しています。第2回ミーティングは、2月13日に実施しますので、第1回同様、多くの方々のご参集をお願いします。(事務局・本間)



グリーンツーリズム地域案内人講座 無事終了&全員合格！

11月19～21日の3日間に渡り、グリーンツーリズム地域案内人講座が開催され、町内及び近隣町村から観光交流を積極的に行っている方々15名と役場の若手4名がオブザーバーとして参加しました。当初は3日に及ぶ研修にどれだけの方々が参加していただけるか不安もありましたが、近隣町村からも老若男女問わず関心を持って参加してくださり、改めてこの地域の観光交流に対する意識の高さを感じたところです。

東京の「まちむら交流きこう」からやってきたベテラン講師陣による講座では安全や法律に関する座学から、実際にフットパス寺の沢川コースを歩いての实地研修、グループワークなど、盛りだくさんの内容でしたが皆さん積極的に取り組んでおりました。最終日には前日にグループで实地踏査を行ったフットパス寺の沢川コースを舞台に黒松内の町を紹介する実技試験も行われました。それぞれ決められた区間、時間の中で前日に発見したことや持っている知識を活かしてガイディング。グループの他のメンバーを札幌から観光にやってきた家族に見立てて案内しました。また、筆記テストも行われ、若干自信がない…とおっしゃっていた方を含め、19名全員が無事合格となりました。とはいえ、今回の講座はゴールではありません。安全に楽しく、黒松内の魅力を町外から訪れる方々にお伝えしていくための通過点です。この度の講座を励みに、まだまだ黒松内の観光交流が広がっていくよう、観光協会としても力を尽くして参りたいと思います。些細なことでもなにか特技や熱中していることをお持ちの方はそれが立派な観光交流につながっていきますので、是非観光協会にお声がけをお願いいたします。(事務局・澤田)



じり通信 No.10 「有名女優に会い損ねた話」

文：山本竜也

「壇蜜さんのナレーションで廃鉱山を取り上げる番組を作っているのですが、山本さんにお伺いしたいことが・・・」。放送局のディレクターを名乗る男性から電話がかかってきた。

「こんど、黒松内町の大金鉱山を取り上げたいと思っています。『BYWAY 後志』に山本さんが記事を書いているのを知り、編集部で連絡先を聞きました。お尋ねしたいのは、大金鉱山の所有者のことなんです」

電話の主が言うには、番組では、道内に残る鉱山の遺構を訪ねて往時の繁栄や現在の状況を伝えており、異様な姿の精錬所が残る大金鉱山もぜひ扱いたいと思ったという。ただ、テレビで取り上げるからには、所有者の許可を得なくてはダメらしい、ところが、黒松内町役場に訊いても、現在の所有者が誰なのか分からなかった、山本さんなら知っているかもと役場に言われたと説明された。

「私も正確なところはわかりません。ただ、あの精錬所は、大金鉱山が閉山したあと、1962年まで寿都鉱山が使っていました。寿都鉱山の所有者は三菱金属鉱業でしたが、閉山後に、子会社の千歳鉱山株式会社の所有になりました。でも、千歳鉱山も閉山になりましたからね・・・。どちらにせよ、親会社は現在の三菱マテリアルですから、本社の窓口にもでも訊けばどうでしょうか」「分かりました。当時働いていた方なども紹介していただければと思っています。また電話しますので、よろしくお願いします」

電話を切ったあと、たまたま近くにいた同僚たちに、「ダンミツって知ってる？ その人がやってる鉱山の番組から問い合わせがあった」と言うと、「え？ 壇蜜を知らないの？ 有名だって」「その番組いつも見てる！ 壇蜜に会えるの？ いいなー！」などとうらやましがられる。「たんなるナレーターでしょ。現地には来ないんでないの？」と言う冷静な同僚もいたが、有名セクシー女優だと聞いて、檀ふみしか知らない私もその気になり、お目にかかる日を楽しみにした。・・・それから4年がたった。あのディレクターからは、いまだに電話がやってこない。大金鉱山が番組で取り上げられたとも聞かない。私も壇蜜さんに会えないままである。

大金鉱山精錬所跡地。かつて寿都鉱山従業員の息子として、ここに住んでいた石垣さんと筆者→



菅野真司の図書統括

文：菅野真司（かんのしんじ） shinjikanno@gmail.com

「空海の風景（上・下）」 司馬遼太郎 著 中公文庫

四国八十八ヶ所巡礼、いわゆる「お遍路さん」を、これまでにバイクで2回ほど巡った。四国という島は北海道の四分の一ほどの面積ながら、山深く海青く、4つの国それぞれに空気の違いがあって、何度も訪れるに値する場所だと思う。弘法大師や真言宗に深い思い入れがあるわけでもなく、身も蓋もない言い方をすれば信心の浅い自分がこの島の寺を回り続けたのは、単純に四国の魅力にはまっていたからだ。

一番札所の次は二番札所、という当たり前の繰り返し。次々と更新されていく目的地。移動に次ぐ移動。それを八十八回繰り返すと、約1,400kmの旅になる。その旅を終えて感じたのは「四国はひとつのテーマパークだ」ということだった。ディズニーランドが、ミッキーマウスを中心とした夢の国ならば、四国は、弘法大師空海さんを中心とした祈りと旅の国なのだ。

観光という言葉にあてはめるのはちょっと気がひけるけれど、お遍路さんは間違いなく現代の四国の観光の中心。著名な観光地だけに人が集中するわけではなく、勝手にグルグルと周遊してくれるのだからありがたい。弘法大師空海さんは、おそらくそこまで考えて四国各地に足跡を残していったのだろう。計り知れない知恵と行動力だ。今や全国各地に「〇〇何十何箇所巡礼」が設定されていて、北海道にもあるけれど、なぜだか巡る気になれない。北海道における観光地の偏在に抗うことはできないし、そもそも抗う必要はない。弘法大師空海さんだったら、今の北海道をどんなテーマパークにするんだろうか。

～山に登れば気分爽快～ 秘境・・そうそう その十三 「朱太川のなぞ？」 最終回

文・写真：ノースランド 辻野健治

今年もよろしく、お願いいたします、ブナの森登山ガイド辻野です。

今回は、黒松内町のすべてを網羅している朱太川の瀬・淵について。瀬とは、川のなかで流れが速く水深が浅い場所、波立ったところです。淵とは流水が緩やかで深みのある場所で魚が潜んでいます。聞くとところによると中里にクマサカの淵、その下流にカップ淵、そして、消防署近くの親水公園上流にガベの淵があります。ガベとは、砂岩や凝灰岩が濡れて滑る事だそうです（ブナセンター・斎藤学芸員談）。

そのガベの淵を見に行き行って来ました。東山スキー場入口の東橋の上流左側に踏み跡があり、5分も歩かないうちに、川岸露岩のところになります。ここが、ガベの淵です。凝灰岩河床は、なまら滑ります。特にうるかっているところは

なかなか歩けません。この奥には、耕作地が有り、更に奥には、アオダモの植林地があります。



↑ガベの淵を越えアオダモの植林に向かう野球少年団



↑河床に出来た^{オウケツ}甕穴

この辺りは、ブナの木も多くあずましいところ。ガベの淵の河床には、甕穴（オウケツ）が出来ています。ポケットホールとも言い、軟弱な岩の部分に、礫が入り、渦流によって出来る円形の穴、ちんこいのから、おきいのまで結構あります。このような場所には、カワシンジュカイも潜んでいるかもしれません。

「山に登れば気分爽快」は今回をもちまして最終回となります。筆者の辻野健治様、長きに渡り本当にありがとうございました。

NAGI' S キッチン



新年、明けましておめでとうございます。

お正月にお雑煮を食べ、きな粉をまぶしたり、お醤油をつけ海苔を巻いたり、色々な味に変化できる美味しいおもち。今回は、茶碗蒸しを作った時の余った栗の甘煮を入れて、「栗ぜんざい」で頂いてみたいと思います。

材料（1人分）

- ・もち 1～2個（お好みで）
- ・小豆あん（粒 / こしお好みで）
80g
- ・水 あんと同量
- ・栗の甘煮 2個
お好みで塩少々
（小さじ1/3くらい）

作り方

- ① あんを同量の水で薄めて沸騰させる。
- ② 栗の甘煮は1つはみじん切りにして①の鍋の中に入れ、もう1つは半分に。
- ③ おもちはトースターで焼きます（目安は4～5分）
- ④ お椀に①を注ぎ、もちを加え半分に切った栗をのせて出来上がり。

△POINT 甘さは砂糖を加えたり水の量で調節してみてください。

☆豆知識

おしるこ（お汁粉）とぜんざい（善哉）は、どちらも小豆を甘く煮て、もちや白玉団子を入れたものですが、両者の違いは関東と関西で異なります。

関東では汁気の有無、関西では使うあんの違いで区別され、汁気のあるもの全般を「おしるこ」、汁気の無いあんにもちを添えたものを「ぜんざい」とよびます

関西では、こしあんを使った汁気のあるものを「おしるこ」、つぶあんを使った汁気のあるものを「ぜんざい」と呼びます。

※諸説あります



観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2019年1月3日 次回発行予定は3月末

TEL/FAX：0136-72-3597 MAIL：bunatatourism@gmail.com